

提案を募集する甲突川沿岸緑地の概要等について

1. 甲突川千本桜再生プロジェクトとは
- 2-1. 甲突川沿岸緑地の概要（全域）
- 2-2. 甲突川沿岸緑地の概要（民間活力導入検討エリア）
3. 甲突川沿岸緑地の現況
4. 甲突川沿岸緑地の課題
5. 再整備におけるゾーニング
6. 再整備方針
7. 今後のスケジュール
8. 参考資料① 周辺の施設情報
参考資料② 周辺の駐車場整備状況



鹿児島市
令和8年5月



-

昭和53年のJC千本桜植樹祭の様子

1

Ⅰ. 甲突川千本桜再生プロジェクトとは



本プロジェクトの実施にあたっては、

- ・ 桜の植替を行うとともに、様々な桜の品種の導入や景観を生かした桜の再配置等を行い、新たな桜の名所として再整備を行う。
- ・ 本プロジェクトは、「第4期鹿児島市中心市街地活性化基本計画」「都市再生整備計画（鹿児島市中心市街地地区）」などの関連施策にも位置付けられていることから、更なるにぎわいの創出や回遊性の向上を目的に、桜の再整備に合わせ、園路整備や休憩施設等の整備などの緑地空間の整備、“民間活力の導入検討”なども実施。

R5

【樹木診断】

樹木医による現状把握および植替すべき樹木の確認

R6～7

【甲突川千本桜再生プロジェクトの策定】

再整備後のゾーニングや各エリアの整備方針、民間活力の導入可能性、導入エリア等について整理



樹木診断の様子

【プロジェクトに基づく測量・設計・整備工事の実施】

全区域を4ゾーンに分け、ゾーンごとに整備予定。

R8～13

【民間活力導入等に関する検討】

- ・ Park-PFI制度など民間のノウハウや知識、資金等を活かした効果的かつ持続可能な事業手法・運営体制の検討・実施。
- ・ 再整備と並行して、周辺に立地するにぎわい拠点との回遊性の向上を図り、地域活性化に繋がる取組の検討・実施



2-2. 甲突川沿岸緑地の概要（民間活力導入検討エリア）



令和7年度に、甲突川沿岸緑地全域を対象とした民間活力導入の可能性に関するサウンディング型市場調査を実施し、その結果、『市場性が高い』との意見があった左岸緑地の一部の区域（以下の①及び②）については、民間活力導入検討エリアとして「甲突川千本桜再生プロジェクト」に位置付けたところである。

【民間活力導入検討エリア】

- ・甲突川左岸緑地 ①（平田橋～高見橋 区間）
- ・甲突川左岸緑地 ②（武之橋～天保山橋 区間）



【土地の状況】

名称	甲突川左岸緑地 ①	甲突川左岸緑地 ②
所在地	平田橋～高見橋 区間	武之橋～天保山橋 区間
対象面積	約2.1ha	約2.6ha
開設年月日	昭和30年4月1日	
公園種別	地区公園	

【関連法令等】

都市計画法

区域区分	市街化区域
用途地域	・甲突川左岸緑地 ① ⇒ 商業地域（容積率400%、建ぺい率80%）
	・甲突川左岸緑地 ② ⇒ 近隣商業地域（容積率300%、建ぺい率80%）
防火・準防火地域	・高見橋付近 ⇒ 防火地域
	・高見橋付近以外 ⇒ 準防火地域

鹿児島市公園条例

建ぺい率 （都市公園法 で定める値を 参酌して 本市条例で 定めた値）	・公園施設の設置基準 （便所などの便益施設等を設置する場合が該当） 2%を限度として設置することができる
	・公園施設の設置基準の特例 （休憩所などの休養施設、体験学習施設などの教養施設、 <u>公募対象公園施設</u> 等を設置する場合が該当） 上記2%とは別に、10%を限度として設置することができる
	新たに <u>公募対象公園施設</u> を設置する場合、およそ <u>3,000㎡</u> 程度まで整備可能。

※用途地域や防火・準防火地域の詳細については、「かごしまiマップ（<https://www2.wagmap.jp/kagoshima/Portal>）」をご覧ください。



3. 甲突川沿岸緑地の現況

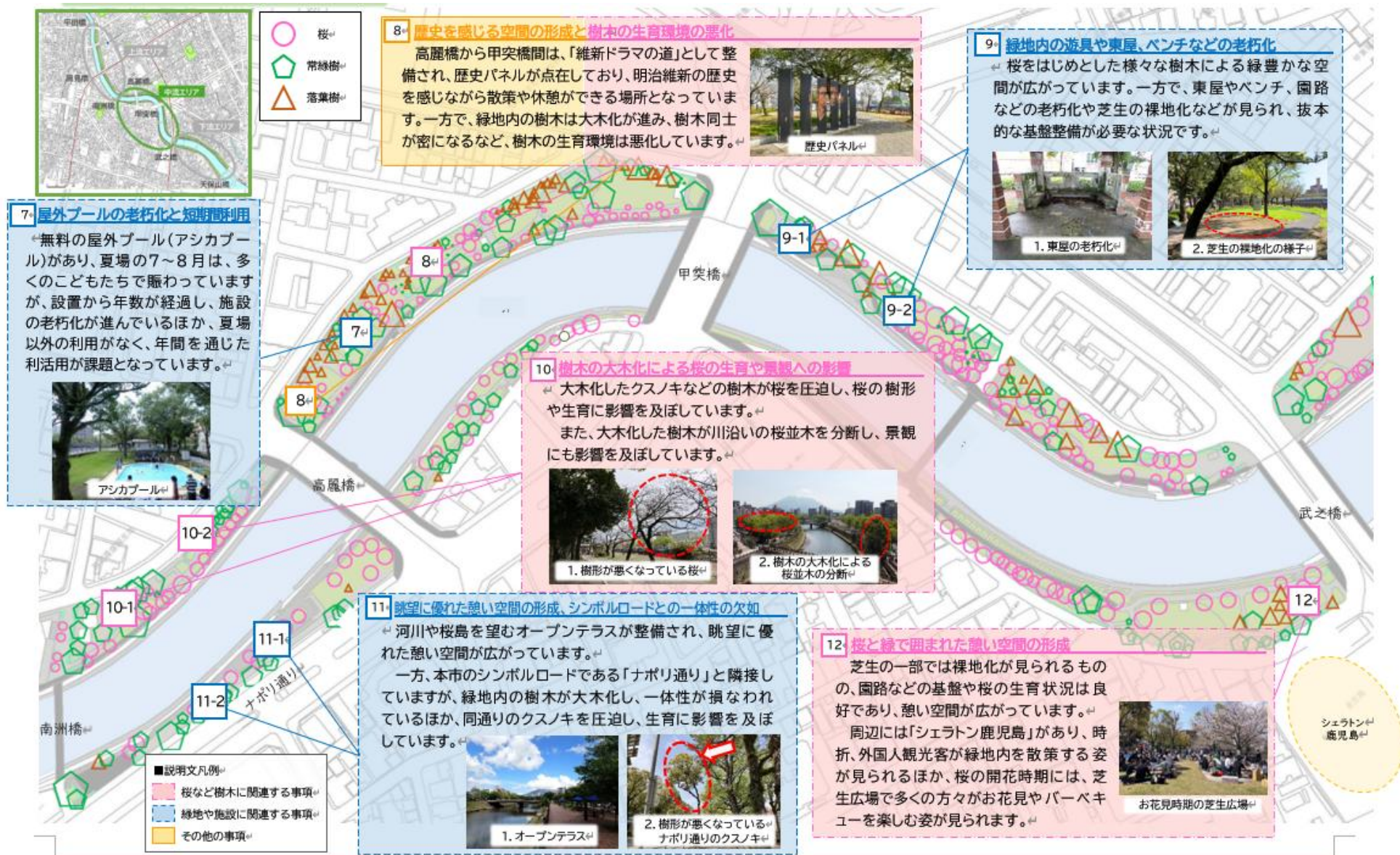
【甲突川沿岸緑地(上流エリア)の現況】 ※上流エリア：平田橋～南洲橋





3. 甲突川沿岸緑地の現況

【甲突川沿岸緑地(中流エリア)の現況】 ※中流エリア：南洲橋～武之橋





3. 甲突川沿岸緑地の現況

【甲突川沿岸緑地(下流エリア)の現況】 ※下流エリア：武之橋～天保山橋



13 遊具や東屋、ベンチ等の老朽化

緑地内には遊具が設置され、こどもたちの楽しむ姿が見られますが、設置から年数が経過し、老朽化が進んでいるものもあります。

また、東屋やベンチの老朽化が見られるほか、広場では水はけが悪い場所も見られます。



1. 遊具で遊ぶこどもたち



2. 水はけが悪い広場

14 桜の生育不良と生育環境の悪化

シロアリ被害や幹の腐朽など、生育不良な桜が多く見られます。また、樹木の大木化や密植による日照不足など、生育環境の悪化も見られます。



傷んでいる桜の写真



13-1

13-2

16

17

14

15

16 水辺を活かしたアクティビティの実施

中流～下流エリアにかけては、観光船の運航やSUP、カヤック体験など、水辺を活用したアクティビティが行われています。



観光船の様子



SUPやカヤックの様子

17 憩い空間の形成、桜の生育不良

緑豊かな空間の中で、散歩や休憩ができる憩い空間が広がっています。一部、芝生の裸地化や東屋・ベンチ等の老朽化が見られるものの、園路などの基盤は近年整備されており、概ね良好な状況です。

一方、桜の生育状況は、シロアリ被害や腐朽が見られ、注意すべき状態のものも多く見受けられます。



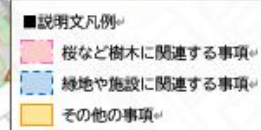
整備された園路

15 こどもたちが集まる遊び場の形成

日中には散歩やジョギングを楽しんだり、木陰で休憩したりする人々の姿が見られ、夕方になると、こどもたちが集まり、元気に遊ぶ姿が見られます。



こどもたちが集まっている様子





4. 甲突川沿岸緑地の課題

課題1 桜の衰退、桜の名所としての魅力低下

課題1-1 桜の老木化や病害虫被害、ソメイヨシノの品種特性

本市の気候や土壌条件に適した維持管理方法が確立されておらず、桜の保全を目的とした十分な管理が行われていないため、老木化や開花状況の悪化、幹や枝の腐朽、シロアリやキノコなどによる病害虫被害が発生し、桜の衰退が見られます。

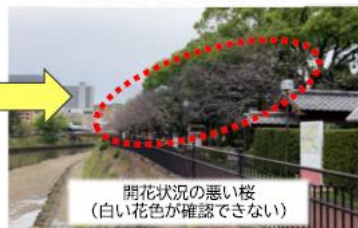
また、現在、主要品種として植栽されている「ソメイヨシノ」は、花色が美しく、桜の中で最も親しまれている品種ですが、一方で、腐朽が入りやすく、桜の代表的な病気の一つである「てんぐ巣病^{※10}」にもかかりやすいといった欠点も抱えています。

桜の開花状況の変化(同地点を撮影)

●2014年4月の満開時の桜



●2024年4月の満開時の桜



課題1-2 桜の生育環境・土壌環境の悪化

植栽樹が狭い場所や来訪者による土壌の踏みしめ(踏圧)により、土が固くなり、根が地中に伸びていけず、根上がりがしている場所があるなど、桜の生育環境や土壌環境の悪化が見られます。



植栽樹が狭く、根上がりがしている桜

課題1-3 桜を惹き立てる魅力的な空間の不足

甲突川河畔は、桜島や甲突川との美しい景観を有し、観光名所として高いポテンシャルを有していますが、他都市で見られるような、河川を活かした水面桜や桜のトンネルなど、桜の魅力を活かした空間づくりが十分に行われておらず、その魅力を発揮できていない状況です。

課題2 大木化した樹木による様々な問題の発生

課題2-1 樹木の大木化による緑地内や周辺環境への影響

クスノキやイチヨウなど緑地内にある樹木は、夏場の木陰や四季折々の景観を形成する一方で、大木化により樹木同士が密接し生育に影響を及ぼしている場所や、根による舗装等の持ち上げにより通行に支障が出ている場所、夜間照明が遮られ暗い印象を与えている場所が見られます。

また、近隣住民からは、「落ち葉が大量に発生し困っている」、「木が大きくなり、台風による倒木が怖い」といった意見も寄せられています。



大木化した樹木



大木化した樹木の根がブロックを押し上げている様子

課題2-2 桜の生育環境への影響、桜並木の分断

大木化した樹木に圧迫され、桜の樹形の乱れや日照不足が生じており、生育環境が悪化しています。

また、景観スポットにおいても、大木化した樹木により、桜並木が分断され、魅力的な景観が損なわれています。



クスノキに圧迫され、樹形が乱れている桜



大木化した樹木による桜並木の分断

4. 甲突川沿岸緑地の課題



課題3 年間を通じた魅力的なにぎわい空間の不足

課題3-1 花見時期やイベント時以外の利用者数の低迷

花見時期やイベント時には、幅広い世代の人々が訪れ、活気あふれる空間となりますが、その時期以外は、散歩やジョギングといった日常的な利用が中心となっています。

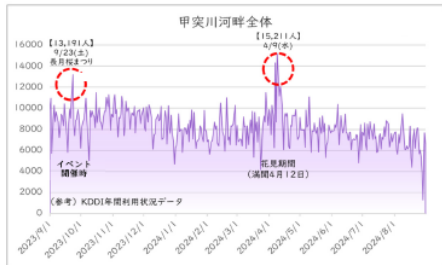


図1: 甲突川河畔への年間来訪者推移(推定値)

課題3-2 周辺のにぎわい拠点との回遊性の不足

周辺のにぎわい拠点である鹿児島中央駅地区やいづろ・天文館地区と甲突川河畔の年間来訪者数を比較すると、甲突川河畔の来訪者数は非常に少ないことがわかります。(図2参照)

また、各拠点間の年間回遊者数の割合を比較すると、甲突川河畔への回遊率は、「鹿児島中央駅地区」と「いづろ・天文館地区」間の回遊率に比べて、非常に低いことがわかります。(表1参照)

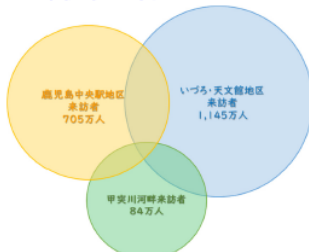


図2: 各にぎわい拠点における年間来訪者数(推定値)
出典: 読解情報システム「KDDI Location Analyzer」
au スマートフォンユーザーのうち観測位置を所持したユーザーを
対象に、個人を特定できない範囲で行って集計しています。

表1: 各拠点間における年間回遊率(推定値)

回遊率(⑧/⑨)	⑤			
	「鹿児島中央駅地区来訪者」 +「いづろ・天文館地区来訪者」	「鹿児島中央駅地区来訪者」 +「甲突川河畔来訪者」	「いづろ・天文館地区来訪者」 +「甲突川河畔来訪者」	—
⑧	「鹿児島中央駅地区来訪者」 705万人	「いづろ・天文館地区来訪者」 1,145万人	「甲突川河畔来訪者」 84万人	—
⑨	14.0%	0.85%	—	—
	8.6%	—	1.05%	—
	—	7.1%	14.2%	—

課題4 憩い空間としての快適性の低下

課題4-1 遊具や施設、園路などの老朽化

こども向けの遊具や休憩施設(東屋・ベンチ)、トイレや園路などは、設置から年数が経過し、老朽化が進んでいる箇所が見られます。

また、自転車と歩行者用の園路が並走し、接触事故等が懸念される場所もあります。

課題4-2 駐車場や夜間照明の不足

緑地内に駐車場が少ないことから、車での来訪を希望する子育て世代や遠方からの来訪者にとっては、利便性の低い場所となっています。

(※令和6年度に実施した市民意向調査の自由意見においても、「駐車場が少ないため、甲突川への来訪を敬遠している」といった回答をした方が一定数いました。)

また、公園灯の不足や大木化した樹木による照明の遮蔽により、夜間の視認性が低下している場所も確認されています。

(※市民意向調査においても、「夜間照明の整備」が市民ニーズの高い整備項目の一つとして、挙げられていました。)



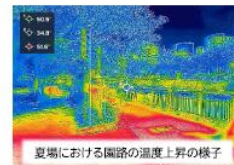
課題4-3 こどもたちが楽しめる遊び場の不足

緑地の下流側(松方橋から天保山橋間)周辺には、複合遊具を備えた公園が少なく、また緑地内の遊具は個々に点在しており、「こどもたちの遊び場」としての空間整備が十分に図られていない状況です。



課題4-4 地球温暖化による快適空間の阻害

地球温暖化等の影響により、夏場に木陰の無い場所では、園路の表面温度が50℃を超えることもあり、快適空間が確保されていない場所も見られます。



課題5 千本桜を守り育てる取組の不足

課題5-1 持続可能な維持管理体制の不足

現在、緑地内の樹木管理は、造園事業者等に委託していますが、厳しい財政状況の中で、維持管理費は年々減少しており、十分な維持管理を行うことが困難な状況となっています。

また、今後想定される少子高齢化や人口減少等に伴い、財源面・人材面での制約はさらに高まることが予想されます。

そのような中、他都市では、継続的な維持管理の実現に向けて、行政による対応に加え、「桜守活動^{※11}」と呼ばれるボランティア活動を推進するなど、市民や事業者等との協働による取組が展開されています。

本市においても、こうした協働による取組の可能性を探るため、甲突川河畔におけるボランティア活動への参加について、近隣町内会を対象に調査を実施した結果、およそ78%の方が参加の意向を示していることがわかりました。

こうした住民の意向を踏まえ、今後は行政だけでなく、地域との連携をより一層強化し、市民や事業者等との協働による持続可能な維持管理体制の構築を進めていくことが重要な課題となっています。





5. 再整備におけるゾーニング

全域を4ゾーンに分け、再整備を進めていきます。

さくら舞う にぎわい交流ゾーン

◇ひらひらと舞う桜の中で、
人々が集う、活気あふれるにぎわい空間へ

イベントなどが開催できる空間は確保しつつ、新たに、桜広場や桜のトンネルなどの「桜スポット」を整備するほか、カフェなどの集客施設等の整備を含めた民間活力の導入を検討し、年間を通じて多くの人々が集まる“活気あふれるにぎわい空間”の創出を目指します。



民間活力導入検討エリア

さくらとみどりの 憩いゾーン

◇桜や緑に囲まれた、ゆったり過ごせる憩い空間へ

既存の緑地風景を活かしつつ、居心地が良く魅力的な空間を整備し、散歩や散策、木陰で休憩をしようとするような“憩い空間”の創出を目指します。



さくらと遊びの わくわくゾーン

◇桜の中で、誰もがわくわく楽しめるアクティビティ空間へ

桜の整備に合わせ、こども向け遊具や大人向けの健康遊具、親水施設などの整備を検討し、桜の中で誰もがわくわく楽しめる“アクティビティ空間”の創出を目指します。

なお、整備にあたっては、民間活力の導入も視野に入れ、検討を進めます。



さくら彩る 魅力アップゾーン

◇現在の魅力を活かし、桜とともに、より魅力的な空間へ

「維新ふるさとの道」などの歴史的空間を活かしつつ、「千本桜メイン空間」として桜で彩る空間を創出するほか、シンボルロードである「ナポリ通り」との一体的活用を図るため、緑地内に「オープンスペース」を整備するなど、“より魅力的な空間”の創出を目指します。



0 100 200m



6. 再整備方針

【甲突川沿岸緑地（上流エリア）の現況】 ※上流エリア：武之橋～天保山橋





6. 再整備方針

【甲突川沿岸緑地（中流エリア）の現況】 ※中流エリア：武之橋～天保山橋

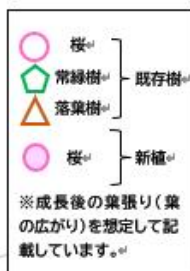


※各種図面・計画内容は、今後の進捗状況により、変更が生じる場合がございます。



6. 再整備方針

【甲突川沿岸緑地（下流エリア）の現況】 ※下流エリア：武之橋～天保山橋



■説明文凡例

桜など樹木に関連する事項

緑地や施設に関連する事項

9-1 誰もが楽しめるアクティビティ空間の整備

インクルーシブな遊具をはじめとしたこども向けの遊具や、大人向けの健康遊具の整備に加え、アシカプール（中流エリア）の代替親水施設として「じゃぶじゃぶ池」などのアクティビティ関連施設の整備や、利便性の向上を図るため、有料駐車場の整備を検討し、誰もがわくわく楽しめる“アクティビティ空間”の創出を目指します。

なお、整備にあたっては、民間活力の導入も視野に入れながら、検討を進めます。



じゃぶじゃぶ池



インクルーシブな遊具



10-1 桜スポットの整備

既存の風景や基盤はそのまま活かしつつ、桜のトンネルなどの「桜スポット」を整備し、桜を堪能できる新たな魅力を兼ね備えた滞留空間を創出します。



※各種図面・計画内容は、今後の進捗状況により、変更が生じる場合がございます。

7. 今後のスケジュール



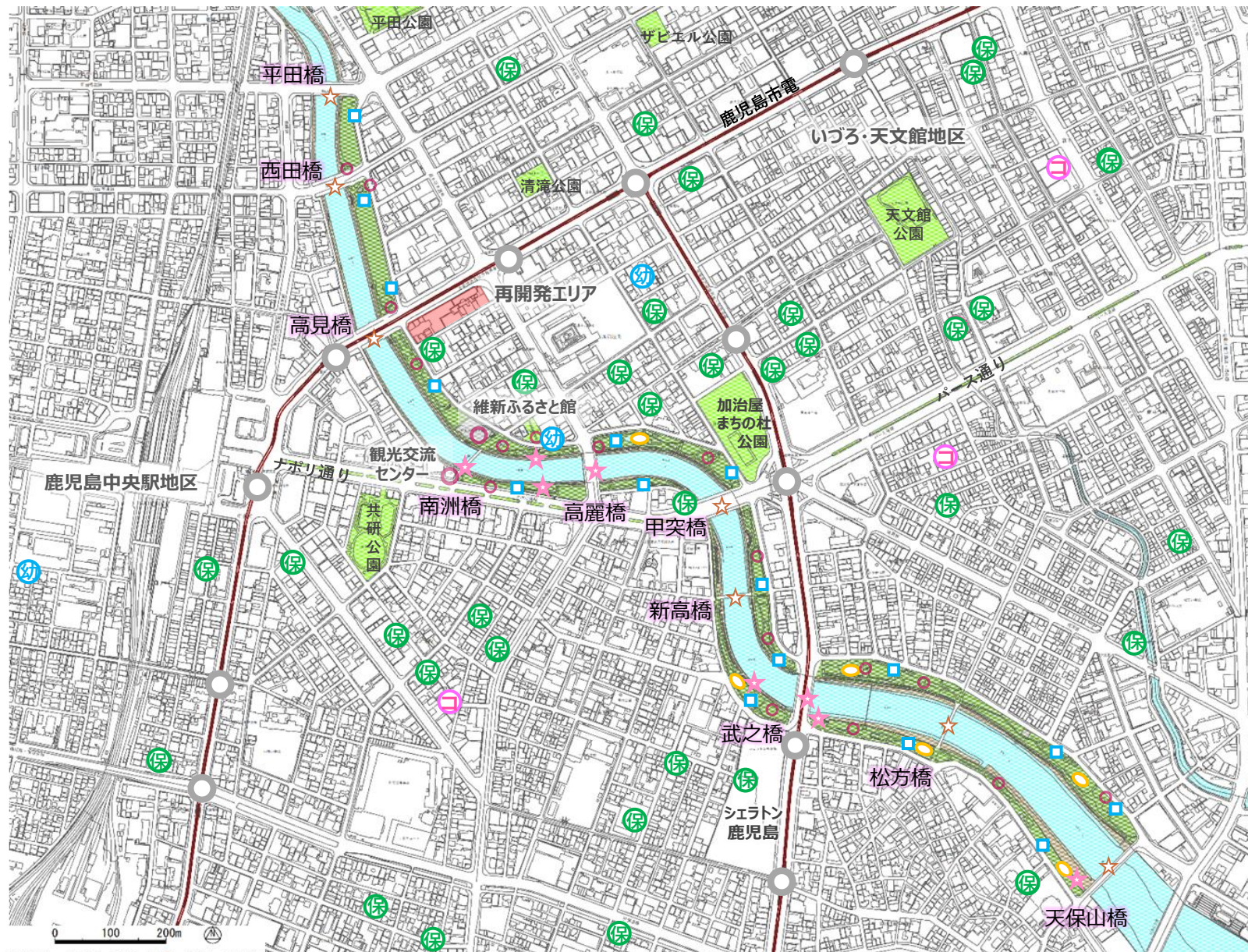
甲突川千本桜再生プロジェクトの上位計画の目標年度を踏まえ、令和13年度までの全面供用開始を目指し、以下のスケジュールに沿って、ゾーンごとに整備を進めていきます。

なお、本スケジュールは、概ねの見通しを示しているものであり、今後の財政状況や進捗等を踏まえ、適宜見直しを行うこととします。

ゾーン名	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
さくらとみどりの 憩いゾーン	測量・基本設計	測量・ 実施設計	整備工事		—	—
さくら彩る 魅力アップゾーン	—	測量・基本設計	測量・ 実施設計	整備工事		—
さくら舞う にぎわい交流ゾーン	—	—	測量・基本設計	測量・ 実施設計	整備工事	
さくらと遊びの わくわくゾーン	—	—	測量・基本設計	測量・ 実施設計	整備工事	

民間活力導入検討エリア

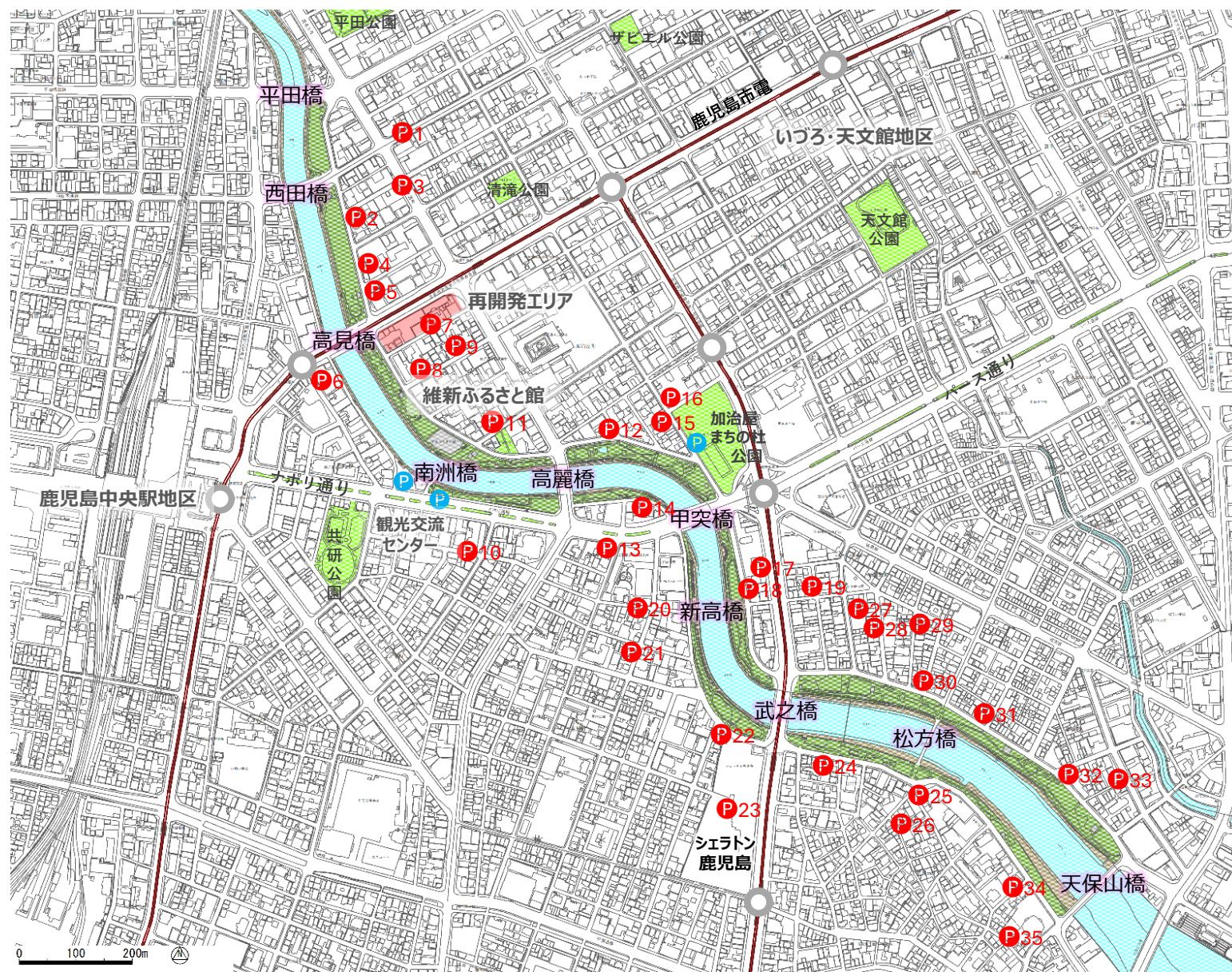
参考資料①：周辺の施設情報



- モニュメント施設等
- トイレ
- 遊具
- こども園
- 幼稚園
- 保育園

- ★ 桜島への眺望スポット
- ★ その他眺望スポット

参考資料②：周辺の駐車場整備状況



P 公園、施設内駐車場
P 周辺駐車場

- 1: 100/h・600/12h・16台
- 2: 100/0.5h・900/12h・16台
- 3: 100/0.5h・700/7h・6台
- 4: 100/20m・900/10h・5台
- 5: 200/h・700/12h・64台
- 6: 700/24h・25台
- 7: 100/h・600/12h・22台
- 8: 100/h・500/12h・4台
- 9: 220/h・900/11h・9台
- 10: 100/h・700/24h・20台
- 11: 100/h・600/10h・10台
- 12: 100/h・700/10h・20台
- 13: 100/h・600/24h・13台
- 14: 100/70m・600/24h・9台
- 15: 100/30m・700/24h・12台
- 16: 100/30m・800/11h・8台
- 17: 100/h・700/24h・14台
- 18: 100/h・700/24h・11台
- 19: 110/40m・600/24h・31台
- 20: 100/h・600/24h・7台
- 21: 100/30m・600/24h・6台
- 22: 100/h・700/12h・9台
- 23: 150/30m・503台
- 24: 100/h・700/24h・8台
- 25: 100/h・600/12h・24台
- 26: 100/h・600/12h・5台
- 27: 100/h・600/24h・9台
- 28: 100/h・500/24h・8台
- 29: 100/h・600/24h・11台
- 30: 100/h・500/12h・6台
- 31: 100/h・300/12h・3台
- 32: 100/h・450/24h・12台
- 33: 110/30m・600/24h・19台
- 34: 100/h・500/12h・7台
- 35: 200/90m・4台

2024年11月6
 NAVITAIME・ロケスマによる調査
 9月調査より増減有